

SORA

web magazine 2015.sep. vol.63

Travel



Philippines Liloan

3日間のリロアン

MAP
CLICK!

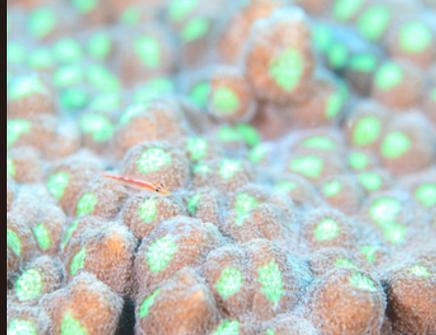
Photo & Text : Yasuaki Kagii

セブの南端に位置するリロアン。以前からとても人気のあるエリアで、カラフルな海中風景と可愛いマクロの生き物が特徴のひとつ。今回もダイバーのための施設であるリロアンマリンビレッジにお世話になって、リロアンの3日間を堪能してきた。天候の関係もあり、ショートレンジでもあるリロアンエリアでのダイビングになったが、毎日、同じポイントに潜っても飽きることはなかった。その秘密は、リロアンの海とガイドの腕のお蔭かな？(笑)

遠回りしてリロアンに

アニラオのリゾートを夜中の3時に出発。5時にはマニラ空港に到着し、無事にチェックインを済ませた。朝8時40分のフライトだったが、搭乗口まで行って待っていても、全然ゲートがオープンする気配がない。10時半頃になって、フライトはキャンセルになったので、ターンテーブルに来て荷物を取って欲しいと。1階で荷物を引き上げ、3階の出発ロビーへ。カウンターで2時半ドマゲッティ行きの便を予約する。1時半の時点で、2時半のフライトは満席で乗れないことが判明。チケットをセブ行きに変更して、2時半発の便に乗り込み、セブ空港から、追加でお願いした車送迎で、リロアンマリンビレッジへ。5時前に空港を出発して、8時半ごろリゾートに到着。待っていた関口さんに迎えられ、夕食を食べた。「さっ! 明日から3日間、潜るぞ!」





Philippines
Liloan
 フィリピン・リロアン
 Travel



1日目の1ダイブ・イラク

7時に集合して、8時から潜る予定が、何だかんだ関口さんと陽子さんと話していると、もう8時15分に。「もう行かないの?」という陽子さんの言葉に、行動開始。レストランの前からボートが出るので、準備は簡単。全ての器材はスタッフが運んでくれるので、カメラだけ持って乗船。今日は、リロアンエリアでのダイビング。所謂、ショートレンジというエリアでのダイビングで、今回お世話になっているリロアンマリンビレッジのハウスリーフのようなもの。ただ、ボートを使用するのが少し違うところ。ポイント数は7つで、一番遠いマヌリバまで約4分という感じ。今回潜ったのイラクというポイント。ガイドは同年代の関口さん（通称、グッチー）。エントリーすると心地よ

7時に集合して、8時から潜る

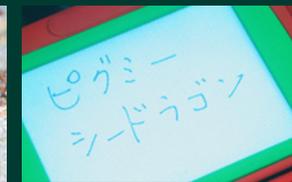
い潮の流れを感じた。水深を20mまで下げていく途中に、たくさんのピンクや黄色のソフトコーラルが咲いている。関口さんが、ガラスハゼやウミウシ、ベニハゼなど、背景にカラフルなソフトコーラルなどがある場所で生き物を教えてくれる。前日の夜に、「今回はどんな写真を撮りたいのか?」という質問を何度も聞いてくれ、このような感じと作例を見せた。その時間が見事にガイドに反映されている。「ハゼ、ウミウシ、エビカニなどの生物が豊富で、今日は特にソフトコーラルが咲いていたので、背景を大切にしたいダイバーにはたまらないポイント。ショートレンジの中でもっとも潜る機会が多いポイントです」とローカルガイドのジョセスは、イラクのことを頼りになる相棒のように話してくれた。



1日目の2ダイブ・イラク2

2本目のダイビングは、10時40分に出航。目指したのはイラク2。イラクの隣のポイントで、水深17mに大きな穴があり、その周囲には、ミナミハタンボが群れていた。このポイントも優しい色のソフトコーラルが多く、海中は賑やかな様子。アオスジテンジクダイの口内保育やサンゴの穴や真っ赤なカイメンに乗ったジレンマブレニー、片まゆのハナビラクマノミ、スパインチークアネモネフィッシュなどを見せてもらう。大物では、うまく擬態しているオオモンカエルアンコウなども出現。ゆっくりまったりと撮影ダイビングを楽しむことができた。「ある程度、着底できる環境やベニハゼの多さなどがイラク2のポイントですね。イラクに隣接しているのでソフトコーラルの豊富さもピカイチですし、とても素晴らしいポイントです」とルイが話してくれた。

Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン
Travel



1日目の3ダイブ・マヌリバ

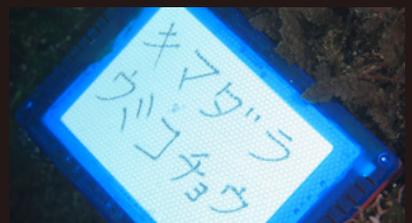
13時半から、マヌリバにエントリー。マヌリバは、エリアで一番流れ難いポイントなので、行く頻度も高いとのこと。緩やかな傾斜のポイントで、大小様々な根が点在しているので、そこに居付く生物も多く、広範囲での観察を楽しむことができる。コガラシエビ、リロアンエリアでは珍しいスプリングー、グズダムセル、ジョーフイッシュ、イソコンペイトウニガニ、ピンクスクワットロブスター、ニチリンダテハゼなどが見られた。今回は、少し透明度が悪かったので、ワイドの写真は撮れなかったが、ここも大きな根にソフトコーラルやウミシダが群棲しているので、広い視点でダイビングも楽しむことができる。

1日目の4ダイブ・ ホワイトロック

4時20分から最終の4ダイブ目。ポイントが近いので1日4ダイブも楽チンにできてしまう。潜ったのはホワイトロック。ここもすごく人気のあるポイントで、水中に大きな根があって、色彩豊かなソフトコーラルとウミシダが並び、そこにキンギョハナダイが群れている。3本目のマヌリバに似ているが、ホワイトロックは、ある意味この根だけが勝負なので、ここに集中でき、他に気が移らない分、良いのかもしれない。いつもガイドさんに見せてもらうロボコンやウミウシなどを撮影。そしてワイドの写真を撮ろうとしたら問題発生。ハナミノカサゴの若魚がいつも私の周りをウロウロしているのだけど、その1匹が、私がレンズに向けた先の生き物を対象として、襲おうとしている。なので、撮影したい生き物がサンゴに飛び込み、また逃げ出してしまう。このハナミノカサゴはこんなことをどこで覚えたんだろう…。少し苦手…（笑）。そして、浅瀬の根に移動すると大きなテーブルサンゴの隙間にキンギョハナダイがごっそりといて、まるで幼稚園か何かのようでとても楽しかったので、たくさん撮影してしまった。「一眼レフなどの大きな水中カメラを持った方には、ホワイトロックとイラクが人気ですね」とJRが教えてくれた。



Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン
Travel





2日目の1ダイブ・ スミロン島、コテージ

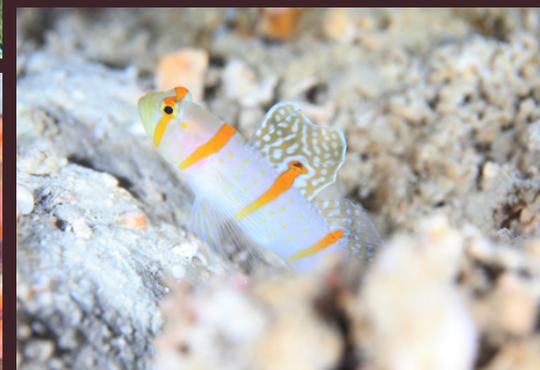
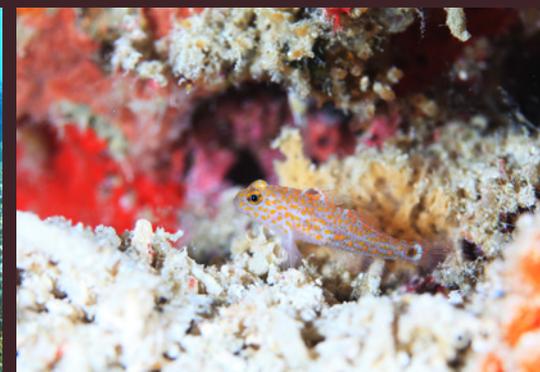
朝6時から朝食。7時には出航して、ミドルレンジのスミロン島へ。お天気も回復して、朝日も美しい。ポートに乗り込んで、スミロン島までは約30分。ブルーウォータースミロンというリゾートが1軒だけある素朴な島。まずは、コテージにエントリーして、水深6~7mの砂地をダイビングしていく。見つかる生き物は、メタリックシュリンプゴビー、ヒレナガネジリンボウ、レッドマージンシュリンプなどハゼがメインになってくる。以前ユタというポイントでは、メタリックシュリンプゴビーがたくさん見られたが、海底環境の変化により、個体数が激減した。そのことを考慮すると、スミロン島で見られるメタリックシュリンプゴビーはとても嬉しい存在。あまり逃げることがなく、じっくりと接近撮りさせてくれた。

Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン
Travel



2日目の2ダイブ・ スミロン島、ガードハウス

2本目はガードハウスというポイントへ。サンゴの豊かな棚からドロップオフ沿いに潜降していく。オーバーハングの下では、ニチリンダテハゼやウミウシ、珍しいハゼの仲間などを見せてもらおう。ウチワなどの腔腸類も豊かで、彩りがある。明るい場所では、イナズマヤッコを見かけたり、キャンディーケイトワーフゴビーも多く、リロアンエリアとは違った生物層にも注目。最後、棚上のサンゴに注目すると、これまた素晴らしかった。繊細な枝ぶりのサンゴを棲み家にパープルビューティーの幼魚が住んでいて、その様子が堪らなく美しかった。



2日目の3ダイブ・ スミロン島、ガードハウス

3本目もガードハウスにエントリーしたが、今度はひとつ隣のブイから。地形は2本目と変わらないが、水深12mほどをウロウロ。至る所で、パープルビューティーが群れている、成魚から幼魚まで、様々なサイズが集まっているのでとても賑やか。ガイドのジョセスがバーチクダムゼルを見せてくれた。いつ見ても、精緻なデザインがキュート。またここはカクレクマノミがとても多いので、見るたびに心が和む。浅瀬のサンゴまで行くと、変わらず無垢なサンゴ礁が広がっている。その上にニセクロホシフエダイが群れ、同じようにアカヒメジも群れていた。



Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン
Travel



2日目の4本目・LBR

1時半にはリゾートに戻ってきたので、2時過ぎからリロアンエリアでダイビング。潜ったのはリゾートから1分以内のLBR。ここも緩やかな傾斜でのダイビング。目立つのはカラフルなウミシダ。その周囲に様々なサカナがいるので、撮影していても楽しい。ガイドのルイに「今回はウミウシを見たい!」とリクエストしていたので、ルイはまじめにウミウシ探し。時折、私を呼んではかわいいウミウシをたくさん見せてくれた。最大水深を17mほどにして、マルチレベルで生き物と出会っていくのが、ストレスもなくて楽しい。最後、浅瀬のブイ付近に戻ってきたら、大きなテーブルサンゴがあり、そこにデバスズメダイなどがたくさん群れていた。南国の海中風景がそこここに広がっていた。



Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン
Travel



2日目の5ダイブ・ハウスリーフ

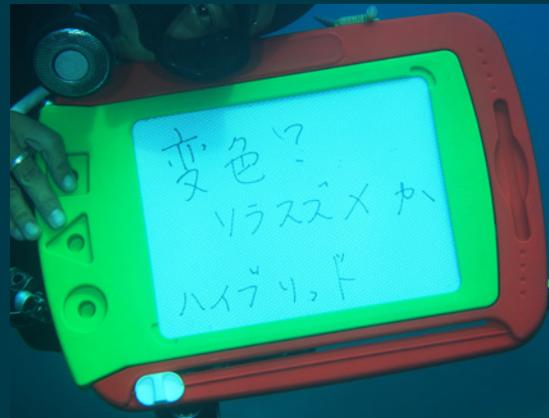
今日はたくさん潜った。本日最終の5ダイブ目。向かったのは、もっとも近いポイントのハウスリーフ。ポートで30秒くらい。引き続きガイドはルイで、愚直にも彼は次のダイビングもウミウシを探してくる。正直、全然私は見つけられないのに、彼は小さなウミウシをたくさん見つけてくれる。どれも大切に撮影すると、1つのウミウシに10分ほど時間を掛けてしまう。そして、撮影を終えて顔を上げると、ルイが、「こっち!」と手招きをしてくれて、また次のウミウシを撮影。見せてくれるウミウシは小さい個体が多いけど、それがまたキュートで可愛い。結構、自分本位に潜ることが多い私にとって、このような素晴らしいガイドをしてもらうと、ガイドさんの存在の大きさに気が付くのです。今日も終了!

3日目の1ダイブ・ホワイトロック

朝は6時に集合して、6時半からダイビング。今日は夕方4時に次の取材地であるモアルポアルに向かうので、それまでに4ダイブを行いたい。取材でそこまで潜らなくても、という感じだけど、リロアン海は面白いので、欲張りになってしまう。斜めのオレンジ色に光る朝日を浴びてボートは出発。潮の様子を見て向かった先はホワイトロック。エントリーしてすぐにウミウシが黄色いウミシダの前でうずくまっていた。

撮影! その後、真っ赤なカイメンの上に鎮座したオレンジ色のオオモンカエルアンコウ。撮影! そして、メインの根に行くと、今日もソフトコーラルが満開! 関口さんが、ピンクのソフトコーラルを啄むノコギリハギを教えてください。カラフルな黄色いカイメンの前も泳いでくれた。撮影! 浅瀬に戻ってくると小さなテーブルコーラルにスズメダイが群れていて、緑色の海藻が背景にある。素敵! 撮影! というような感じで楽しい朝の時間はあっという間に1時間を迎えた。

Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン
Travel



3日目の2ダイブ・イラク

朝食を食べて、9時に出航。向かった先は、イラク。滞在中に2回は潜っておきたいポイント。まず水深を落として、ガラスハゼなど様々な環境にいる生物にご挨拶。ガイドのJRがフィリピンプレニーとセジロクマノミのコンビネーションを教えてくださいましたが、それは前回に撮影したので、一緒に潜っていた友人のフォト派ダイバーにお譲りする。このペアは、写真集「二匹のさかな」で掲載している。リロアン海には、写真集で本当にお世話になっている。「ダメだ、

朝食を食べて、9時に出航。向

撮り過ぎ!」と思いつつ、ソフトコーラルとキンギョハナダイを撮影して浅瀬に。彩の良いサンゴに棲むカンザシヤドカリとイバラカンザシを一緒に撮影。その後も水深5mで、青いハナヒゲウツボ、珍しい黄色いハナヒゲウツボを撮影。最後は、サンゴの宮殿に棲んでいるようなツースポットプレニーを撮影。最後の安全停止まで、被写体に事欠かない。

3日目の3ダイブ・アンテナ

11時に出発して、アンテナというポイントへ。ボートで3分半ほどのポイントで、イラクに隣接する。海中は、イラクとはまた違う趣きがある。カラフルなソフトコーラルはほとんどなく、大きな造礁サンゴや地味なソフトコーラルが海底を覆っている。またこのポイントは、フィリピンブレニーがとても多く、至る所で姿を見かける。時には3匹が集まっているシーンなどもあり、その出会いはとても楽しい。水深を上げた浅瀬でもクマドリイザリウオなどが見つかるので、なかなか気が抜けない。そして、その浅瀬には、他の海ではあまり見られないスポンジコーラルの群棲を見ることができる。まるで海の絨毯のようだが足の踏み場がない。同じリロアンエリアでありながら、まったく違う環境を楽しめるのでお得感が満載だ。



Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン
Travel



3日目の4ダイブ・ホワイトロック

昼食を食べて、2時から最終ダイブ。向かったのは、潮の流れを考慮してホワイトロック。エントリーして最初はかなり潮の流れがあった。なので、メインの根に行き、潮当たりのない場所で撮影を開始。ギンボとソフトコーラルと一緒に撮影したりして、マクロの撮影を一通り終える。そしてワイドのカメラに持ち替えて、潮当たりの良い場所に行くと、潮に向かってキンギョハナダイが花火のように根から一斉に飛び出していた。これは美しいと撮影を開始。ソフトコーラルも良い具合に満開だった。撮影をしていると、身体でも感じるほど潮の流れが弱くなってきた。かと思うと、根からあんなに飛び出していたキンギョハナダイが、根の隙間に収まっていく。そして潮がびたりと止まると、静かなソフトコーラルの根になってしまった。それでもどこかに華と色を見つけて角度を変えて撮影、撮影。気が付けば1時間になり、リロアンでの全ての撮影は終了していた。楽しい時間だった。



Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン
Travel

リロアンマリンジレッジの魅力

海沿いに位置するダイバーのための宿泊施設。ダイビングセンターも併設して、滞在中は移動も少なく、リゾート内だけで快適に過ごすことができる。客室は、スイート1部屋とデラックスルーム8部屋、スタンダードルームが2部屋。車で約5分の別館、ブンガヴィラは12部屋あり、団体のゲストも対応できる。本館のデラックスルームは、レストランやボート乗り場、機材置き場など全てが近く。どっぷりとダイビングをするには最高のロケーション。室内にさざ波の音が届いてくる。リロアンエリアのポイントは小型ボートで1~4分程度。それぞれのポイントは異なった被写体が多く、何度潜ってもあきない。1ダイブごとにリゾートに戻ってくるので、しっかり陸でも休憩がとれ、またお部屋でのんびりしたり、お茶を飲んだりできる。

食事は毎回ビュッフェスタイルで、日本人好みに味付けしたフィリピン料理。年々美味しさが増し、現在は好評のラインナップ。朝昼夜と気持ち良い風が通る水上レストランでの食事。3食しっかりと付いているので、他のレストランに行く必要がなく、ダイビングに集中できるので都合が良い。



経験豊富&フレッシュな日本人スタッフと 眼力が高いローカルガイド!

日本人スタッフの関口さんは、リロアンでのガイド歴も長く、海のことを隅々まで知り尽くしている。また水中カメラにも造詣が深い。陽子さんも同じく、リロアン歴が長く、何でも相談できる頼れる姉御的存在。フレッシュなガイドのさわちゃんは、皆に好かれるキャラクターの持ち主で、これからのリロアンを背負っていく。ローカルガイドのジュセス、ルイ、JRは心強いガイド陣。何よりも目が良く、様々な生き物を見つけてくれる。また水中スレートを使用して、日本語で生物名を教えてくれるので驚き、私よりも生き物の名前を知っていた…。少人数制のダイビングなので、ビギナーからベテランまで安心して潜ることができる。早朝からナイトダイビングまで1日6ダイブが可能。必ずガイドが同行するでのいつでも安心して潜ることができる。

ダイビングエリアは、ショートレンジのスマロンエリア以外に、サンゴ礁が美しく、スマロンエリアとはまた違った生態系のミドルレンジのスマロン諸島（ボート所要時間、30分）、ギンガメアジの群れと壮大なスケールの美しいサンゴ礁、そして、Tシャツを売りに来るおばちゃんとの格闘（笑）がある。ロングレンジでアボ島（ボート所要時間、1時間半）。そして、ギンガメアジとバラクーダの群れに会いにくバリカサグ、（ボート所要時間、1時間45分）。がある。そのような遠征ダイブの場合、3ダイブ行い、遠征先で、その日のダイビングを終わらせるのが基本となる。



Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン
Travel

